

		卒業時	4年次終了時	基礎的	
	資質の到達レベル	4	3	2	1
1. プロフェッショナリズム	【DP】 ・ 薬剤師としての責務を自覚し、強い責任感と倫理観を持って、患者や地域住民に医療を提供できる。	医療現場において、もてる知識を統合し、学生薬剤師として相応しい責任感と倫理観をもって患者や医療関係者と接し、患者や地域住民に医療を提供できる。	模擬的な医療環境において、医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を持ち、薬剤師としての責務を認識して医療の提供をシミュレートできる。	医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を認識し、責任感と倫理観を持って行動できる。	医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を知り、医療系学生として相応しい行動ができる。
2. コミュニケーション能力	【DP】 ・ 多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築くことができる。 ・ 患者や地域住民、医療関係者などとの間で、必要な情報の収集・提供を適切に行うことができる。	医療現場や社会において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築き、相手の話を傾聴し共感的理解を示しながら（ナラティブ）、必要な情報の収集・共有・提供を適切に行うことができる。	模擬的な医療環境において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築き、相手の話を傾聴し共感的理解を示しながら（ナラティブ）、必要な情報の収集・共有・提供を行うことができる。	模擬的な医療環境において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係の構築を目指し、相手の話を傾聴しながら、必要な情報の収集・提供を行うことができる。	学生生活・カリキュラムにおいて多様な背景を持つ人々と良好な人間関係の構築を目指し、相手の話を傾聴し、わかりやすく情報を伝えることができる。
3. 患者中心のチーム医療	【DP】 ・ 医療を共に担う多職種の職能を相互に理解・尊重し、患者に関わる情報を共有できる。 ・ 多職種と連携・協力しながら薬剤師の専門性を発揮し、患者中心の医療を実践できる。	医療現場において、多職種と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療を実践できる。	模擬的な医療環境において、他学部の学生と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療をシミュレートできる。	学生生活・カリキュラムにおいて、他学部の学生と連携・協力した上で、医療を共に担う多職種の職能を理解し、グループワークにおいては患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を意識しながらチーム医療をシミュレートできる。	学生生活・カリキュラムにおいて、医療を共に担う多職種の職能を知り、他学部の学生と連携・協力できる。
4. 専門的実践能力	【DP】 4-1 医薬品の調製、管理、供給・医薬品の多様な特性と法的規制を理解し、医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる	医薬品の多様な特性と法的規制を理解したうえで、医療現場において医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる。	医薬品の多様な特性と法的規制を理解したうえで、模擬的な医療環境において医薬品の調製、管理、供給をシミュレートできる。	医薬品・化学物質の多様な特性と生体との相互作用を理解し、代表的な医薬品を法的規制のもとに適切に取り扱うことができる。	医薬品・化学物質の代表的な特性や生体に関する基本的事項を理解する。
4. 専門的実践能力	【DP】 4-2 薬物治療の計画・実践・評価・患者の病態とともに患者・家族の心理・社会的背景を把握した上で、科学的な根拠と医薬品の特性に基づいて、安心・安全な薬物治療を実践できる。	医療現場において、患者・家族の心理・社会的背景に配慮しつつ、病態を把握したうえで、科学的な根拠をもった安心・安全な薬物治療を評価・計画・実践できる。	模擬的な医療環境において、患者・家族の心理・社会的背景に配慮しつつ、病態を把握したうえで、科学的な根拠をもった安心・安全な薬物治療の評価および計画をシミュレートできる。	与えられた模擬の患者情報に基づいて、病態を把握し、科学的な根拠に基づいた適切な薬物治療の計画を立案できる。	代表的な疾患の病態を理解し、薬物治療を実施するための基本的事項を理解する。
5. 社会的貢献	地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）を実践して、地域における人々の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献できる。	地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）を実践して、地域住民の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献できる。	模擬的な環境において、地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）をシミュレートできる。	地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識し、地域住民の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上における薬剤師の役割と意義を理解する。	地域の保健、医療、福祉について現状を理解し、薬剤師に求められる資質・能力を認識する。
6. 薬学研究と自己研鑽	【DP】 ・ 医療・薬学に関する研究課題に取り組み科学的探求心を有する。 ・ 論理的、批判的な視点から医療・薬学に関する問題を発見し、解決するための方策を提示できる。 ・ 最新の知識や技能、必要な情報を、国際的視野に立脚して生涯にわたって獲得する意欲と態度を有する。	・ 医療・薬学に関する問題を自ら発見し、最新の知識や技能、必要な情報を活用して論理的、批判的な視点から解決するための方策を習慣的に提示する。 ・ 医療現場において、薬剤師の責務を認識した上で自ら目標を定め、実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。	・ 最新の知識や技能、必要な情報を修得する技能を身につけ、与えられた課題における問題点に対して論理的、批判的な視点から解決するための方策を討議し、自らの考えとして文章にまとめることができる。 ・ 模擬的な医療環境において、薬剤師の責務を認識し、自ら目標を定めて実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。	・ 研究倫理と統計の知識を修得し、基本的な研究手法と理論を修得するとともに、提示された課題について討議・発表する。 ・ 薬剤師の責務を理解し、自ら医療のプロフェッショナルを目指す上での目標を考え、自己省察できる。	・ 基本的な研究手法と理論を理解し、提示された課題について調べる。 ・ 医療のプロフェッショナルを目指す学生として、目標を持って学生生活に取り組み、その行動を自己省察できる。
7. アイデンティティ	【DP】 昭和大学の伝統を重んじ、その名譽を高めるために全力を尽くす。	医療現場・社会とのかかわりにおいて、自己省察に基づいた目標を立て、倫理的に配慮した行動を常に自ら実践することで建学の精神（至誠一貫）を体現する。	模擬的な医療環境において、倫理的に配慮した行動をとり、建学の精神（至誠一貫）の観点から自己省察を繰り返し、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。	建学の精神（至誠一貫）に基づき、自己と他者の違いを理解し、他学部・他学年とのかかわり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。	建学の精神（至誠一貫）を理解し、友人との関わり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。

		卒業時	4年次終了時	基礎的		
		資質の到達レベル	4	3	2	1
1. プロフェッショナル	<p>[DP]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師としての責務を自覚し、強い責任感と倫理観を持って、患者や地域住民に医療を提供できる。 	<p>[CP]</p> <p>薬剤師としての責務を認識し、倫理観を醸成するための授業科目（医療現場での体験実習を含む）を1年次から各学年で開講する。特に法規・規範を理解するための授業科目は2年次から開講する。授業で培った責務と倫理観をもって人間性豊かな医療を実践する態度を身につけるため、4年次後期から附属病院および薬局において参加・実践型の実務実習を行う。知識に関する評価は筆記・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。</p>	<p>医療現場において、もてる知識を統合し、学生薬剤師として相応しい責任感と倫理観をもって患者や医療関係者と接し、患者や地域住民に医療を提供できる。</p>	<p>模擬的な医療環境において、医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を持ち、薬剤師としての責務を認識して医療の提供をシミュレートできる。</p>	<p>医療のプロフェッショナルを目指す学生として薬剤師の責務を認識し、責任感と倫理観を持って行動できる。</p>	<p>医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を知り、医療系学生として相応しい行動ができる。</p>
2. コミュニケーション能力	<p>[DP]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築くことができる。 ・患者や地域住民、医療関係者などとの間で、必要な情報の収集・提供を適切に行うことができる。 	<p>[CP]</p> <p>1年次は寮生活、初年度体験実習（在宅・福祉施設訪問等を含む）、学部連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、医療人として患者・家族、医療スタッフなどと適切に対応し、情報の収集・提供能力を修得するために、コミュニケーション演習、PBL、チャートリポートなどの授業科目において参加型実習（模擬患者を対象としたロールプレイ実習を含む）を行う。4年次後期からは、附属病院の病棟や薬局・在宅で患者や家族との面談・指導および地学部学生、多職種との連携を実践する多様な実務実習を行う。これらの評価は、レポート、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。</p>	<p>医療現場や社会において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築き、相手の話を傾聴し共感的理解を示しながら（ナラティブ）、必要な情報の収集・共有・提供を適切に行うことができる。</p>	<p>模擬的な医療環境において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築き、相手の話を傾聴し共感的理解を示しながら（ナラティブ）、必要な情報の収集・共有・提供を行うことができる。</p>	<p>模擬的な医療環境において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築を目指し、相手の話を傾聴しながら、必要な情報の収集・提供を行うことができる。</p>	<p>学生生活・カリキュラムにおいて多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築を目指し、相手の話を傾聴し、わかりやすく情報を伝えることができる。</p>
3. 患者中心のチーム医療	<p>[DP]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を共に担う多職種の職能を相互に理解・尊重し、患者に関わる情報を共有できる。 ・多職種と連携・協力しながら薬剤師の専門性を発揮し、患者中心の医療を実践できる。 	<p>[CP]</p> <p>体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身に付けるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2～4年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をめとして「チーム医療を築く」をテーマとして、PBL、チャートリポート、シミュレーションとして、実践的に構成された学部連携PBL、チュートリアルを各学年で開講する。4年次末～6年次には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身に付けるため、附属病院・地域での実務実習・学部連携実習を行う。チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。</p>	<p>医療現場において、多職種と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療を実践できる。</p>	<p>模擬的な医療環境において、他学部の学生と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療をシミュレートできる。</p>	<p>学生生活・カリキュラムにおいて、他学部の学生と連携・協力した上で、医療を共に担う多職種の職能を理解し、グループワークにおいては患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を意識しながらチーム医療をシミュレートできる。</p>	<p>学生生活・カリキュラムにおいて、医療を共に担う多職種の職能を知り、他学部の学生と連携・協力できる。</p>
4 専門の実践能力	<p>[DP]</p> <p>4-1 医薬品の調製、管理、供給・医薬品の多様な特性と法的規制を理解し、医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる</p>	<p>[CP]</p> <p>医薬品の多様な特性を理解するために、1年次より薬学の基礎知識を学び、学年進行に応じて医療への応用が修得できるよう体系的かつ段階的に講義・演習・実習を構築する。医薬品に関する法規制を理解するための科目は2年次より、医療現場で医薬品の調製、管理、供給を適切に実施するために必要な知識、技能、態度を修得するための講義と実習は3年次より開講する。これらの授業で身につけた能力を薬学共用試験（CBT, OSCE）で評価したのち、4年次末から附属病院と薬局で実務実習を行う。これらの評価には、筆記試験、口頭試験、レポート、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては学年末の進級試験や卒業試験により総合的評価を行う。</p>	<p>医薬品の多様な特性と法的規制を理解したうえで、医療現場において医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる。</p>	<p>医薬品の多様な特性と法的規制を理解したうえで、模擬的な医療環境において医薬品の調製、管理、供給をシミュレートできる。</p>	<p>医薬品・化学物質の多様な特性と生体との相互作用を理解し、代表的な医薬品を法的規制のもとに適切に取り扱うことができる。</p>	<p>医薬品・化学物質の代表的な特性や生体に関する基本的事項を理解する。</p>
4 専門の実践能力	<p>[DP]</p> <p>4-2 薬物治療の計画・実践・評価・患者の病態とともに患者・家族の心理・社会的な背景を把握した上で、科学的な根拠と医薬品の特性に基づいて、安心・安全な薬物治療を実践できる。</p>	<p>[CP]</p> <p>薬物治療に必要な基本的知識を修得する科目は主として1～3年次に開講し、4～6年次には科学的な根拠に基づいた思考力や判断力、薬物治療の実践力を涵養するための授業科目を配置する。2年～4年次の「薬と疾病」、「PBL チュートリアル」では、医薬品の特性と科学的根拠に基づいた安心・安全な薬物治療を実践する能力の基盤を作る。4年次以降の実務実習（附属病院17週間、薬局1週間）では患者・家族の心理・社会的な背景を把握した上で薬物治療を実践するための学修を行い、5年次からのクリニカルクラークシップでは主体的に実践する。臨床における問題発見・解決能力を醸成するために、自己主導型学修をサポートし、省察と適切なフィードバックによって継続的な成長を促す。これらの評価には、筆記試験、口頭試験、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては学年末の進級試験や卒業試験により総合的評価を行う。</p>	<p>医療現場において、患者・家族の心理・社会的な背景に配慮しつつ、病態を把握したうえで、科学的な根拠をもった安心・安全な薬物治療を評価・計画・実践できる。</p>	<p>模擬的な医療環境において、患者・家族の心理・社会的な背景に配慮しつつ、病態を把握したうえで、科学的な根拠をもった安心・安全な薬物治療の評価および計画をシミュレートできる。</p>	<p>与えられた模擬の患者情報に基づいて、病態を把握し、科学的な根拠に基づいた適切な薬物治療の計画を立案できる。</p>	<p>代表的な疾患の病態を理解し、薬物治療を実施するための基本的事項を理解する。</p>
5 社会的貢献	<p>[DP]</p> <p>医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等を通じ、地域における人々の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献する</p>	<p>[CP]</p> <p>プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療を実施する上での基本的な知識、技能、態度を修得するため、1年次より地域医療（在宅チーム医療教育を含む）、2年次から衛生薬学、「薬学と社会」に関する講義と実習を開講する。各学年で段階的な学修を継続した上で、4年次末からの実務実習において地域での実践的学修を行う。これらの評価には、筆記試験、口頭試験、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては学年末の進級試験や卒業試験により総合的評価を行う。</p>	<p>地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）を実践して、地域住民の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献できる。</p>	<p>模擬的な環境において、地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）をシミュレートできる。</p>	<p>地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識し、地域住民の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上における薬剤師の役割と意識を理解する。</p>	<p>地域の保健、医療、福祉について現状を理解し、薬剤師に求められる資質・能力を認識する。</p>
6 薬学研究と自己研鑽	<p>[DP]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・薬学に関わる研究課題に取り組む科学的探求心を有する。 ・論理的、批判的な視点から医療・薬学に関わる問題を発見し、解決するための方策を提示できる。 ・最新の知識や技能、必要な情報を、国際的視野に立脚して生涯にわたって獲得する意欲と態度を有する。 	<p>[CP]</p> <p>基本的な研究方法を修得するために、2年次から各専門領域の実習を実施する。3年次において研究倫理ならびに統計的手法を学ぶ科目を開講する。さらに国際的な視野を持って高度な専門知識、研究手法、そして科学的根拠に基づいた問題発見・解決能力を身につけるため、4～6年次には薬学研究を行う。4年次以降の薬学研究、実務実習、演習は、自己学習を強く促し、省察と適切なフィードバックによって生涯にわたる自己研鑽の土台を作る。学会、学位論文発表会などに参加し、卒業後も研鑽を積んでいる薬剤師の活動を知る機会も設ける。これらの評価には、筆記試験、口頭試験、実地試験、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、薬学研究については研究成果の発表と論文により総合的評価を行う。</p>	<p>・医療・薬学に関わる問題を自ら発見し、最新の知識や技能、必要な情報を活用して論理的、批判的な視点から解決するための方策を提示する。</p> <p>・医療現場において、薬剤師の責務を認識した上で自ら目標を定め、実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。</p>	<p>・最新の知識や技能、必要な情報を修得する技能を身につけ、与えられた課題における問題点に対して論理的、批判的な視点から解決するための方策を提示し、自らの考えとして文章にまとめることができる。</p> <p>・模擬的な医療環境において、薬剤師の責務を認識し、自ら目標を定め、実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。</p>	<p>・研究倫理と統計の知識を修得し、基本的な研究方法と理論を修得するとともに、提示された課題について討議・発表する。</p> <p>・薬剤師の責務を理解し、自ら医療のプロフェッショナルを目指す学生生活として、目標を持って学生生活に取り組み、その行動を自己省察できる。</p>	<p>・基本的な研究方法と理論を理解し、提示された課題について調べる。</p> <p>・医療のプロフェッショナルを目指す学生として、目標を持って学生生活に取り組み、その行動を自己省察できる。</p>
7 アイデンティティ	<p>[DP]</p> <p>昭和大学の伝統を重んじ、その名譽を高めるために全力を尽くす。</p>	<p>[CP]</p> <p>全学年にわたって実施する4学部連携教育やアイデンティティ教育により、本学の伝統や特長を認識し、昭和大学卒業生としてのプライドを持って医療に貢献する薬剤師を養成する。評価は口頭での理解やポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。</p>	<p>医療現場・社会とのかかわりに、自己省察に基づいた目標を立て、倫理的に配慮した行動を常に自ら実践することで建学の精神（至誠一貫）を体現する。</p>	<p>模擬的な医療環境において、倫理的に配慮した行動をとり、建学の精神（至誠一貫）の観点から自己省察を繰り返す、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。</p>	<p>建学の精神（至誠一貫）に基づき、自己と他者の違いを理解し、他学部・他学年とのかかわり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。</p>	<p>建学の精神（至誠一貫）を理解し、友人との関わり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。</p>

		卒業時		4年次終了時		基礎的					
		資質の到達レベル		4		3		2		1	
3. 患者中心のチーム医療	<p>【DP】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療を共に担う多職種の職能を相互に理解・尊重し、患者に関わる情報を共有できる。 多職種と連携・協力しながら薬剤師の専門性を発揮し、患者中心の医療を実践できる。 	<p>【CP】</p> <p>体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身に付けるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2～4年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をもとに、チーム医療を実施するシミュレーションとして、累積的に構成された学部連携PBLチュートリアルを各学年で開講する。4年次末～6年次には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身に付けるため、附属病院・地域での実務実習・学部連携実習を行う。チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。</p>	<p>医療現場において、多職種と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療を実践できる。</p>		<p>模擬的な医療環境において、他学部の学生と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療をシミュレートできる。</p>		<p>学生生活・カリキュラムにおいて、他学部の学生と連携・協力した上で、医療を共に担う多職種の職能を理解し、グループワークにおいては患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を意識しながらチーム医療をシミュレートできる。</p>		<p>学生生活・カリキュラムにおいて、医療を共に担う多職種の職能を知り、他学部の学生と連携・協力できる。。</p>		

学年	第1学年						第2学年						第3学年						第4学年						第5学年						第6学年										
授業形態	講義	講義・演習		実習		講義	演習		実習		講義	演習		実習		講義	演習		実習		演習	実習		実習																	
科目名	薬学への招待	地域医療入門	ヒューマンコミュニケーションA	ヒューマンコミュニケーションB	アカデミックスキルズ	チーム医療の基盤	初年次体験実習	薬剤師と医薬品に関する法規範Ⅰ	コミュニケーション	在宅チーム医療と倫理 TBLⅡ	生と死	診療の流れを知る 実習	薬剤師と医薬品に関する法規範Ⅱ	医薬品情報と患者情報	社会保障制度と医療経済	薬剤師の使命	薬と疾病チュートリアル1(神経疾患)	薬剤師に求められる倫理観	薬と疾病チュートリアル2(循環器疾患)	学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	調剤・患者対応入門 実習	急性期医療と薬剤師 実習	個別化医療	地域医療とプライマリケア	放射性医薬品の利用と管理	学部連携チーム医療PBLⅢ	EIM演習	薬と疾病チュートリアル3(がん疾患)	実務実習事前学修	病院実習1	症候と疾患推測	臨床心理学の活用	医薬品の副作用・有害事象	病院実習2(精神医療実習を含む)	薬局実習	学部連携病棟実習	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ	薬剤師の臨床判断	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ	学部連携病棟実習	
資質の到達レベル(学年の目安)	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	3	4	4

卒業時

4年次終了時

基礎的

		資質の到達レベル	4	3	2	1
6 薬学研究と自己研鑽	<p>【DP】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療・薬学に関わる研究課題に取り組む科学的探求心を有する。 論理的、批判的な視点から医療・薬学に関わる問題を発見し、解決するための方策を提示できる。 最新の知識や技能、必要な情報を、国際的視野に立脚して生涯にわたって獲得する意欲と態度を有する。 	<p>【CP】</p> <p>基本的な研究手法を修得するために、2年次から各専門領域の実習を実施する。3年次において研究倫理ならびに統計的手法を学ぶ科目を開講する。さらに国際的な視野を持って高度な専門知識、研究手法、そして科学的根拠に基づいた問題発見・解決能力を身につけるため、4～6年次には薬学研究を行う。4年次以降の薬学研究、実務実習、演習は、自学自習を強く促し、省察と適切なフィードバックによって生涯にわたる自己研鑽の土台を作る。学会、学位論文発表会などに参加し、卒業後も研鑽を積んでいる薬剤師の活動を知る機会も設ける。これらの評価には、筆記試験、口頭試験、実地試験、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、薬学研究については研究成果の発表と論文により総合的評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療・薬学に関わる問題を自ら発見し、最新の知識や技能、必要な情報を活用して論理的、批判的な視点から解決するための方策を習慣的に提示する。 医療現場において、薬剤師の責務を認識した上で自ら目標を定め、実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最新の知識や技能、必要な情報を修得する技能を身につけ、与えられた課題における問題点に対して論理的、批判的な視点から解決するための方策を討議し、自らの考えとして文章にまとめることができる。 模擬的な医療環境において、薬剤師の責務を認識し、自ら目標を定めて実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理と統計の知識を修得し、基本的な研究手法と理論を修得するとともに、提示された課題について討議・発表する。 薬剤師の責務を理解し、自ら医療のプロフェッショナルを目指す上での目標を考え、自己省察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な研究手法と理論を理解し、提示された課題について調べる。 医療のプロフェッショナルを目指す学生として、目標を持って学生生活に取り組み、その行動を自己省察できる。

学年	第1学年			第2学年					第3学年				第4学年			第5学年				第6学年																	
授業形態	講義	実習	講義	演習		実習		講義	演習		実習	演習	実習	演習	実習		演習	実習																			
科目名	生物統計	薬学への招待	基礎サイエンス実習	個人・集団・社会と健康	キャリアデザイン	在宅チーム医療と倫理 TBLII	生と死 演習	学修技法とステューデントデベロップメント	生理由ら病態へ 演習	物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法	医薬品の化学 実習	人体の成り立ちと機能 実習	生命体の成り立ち 実習	薬学英語1	薬学英語2	薬と疾病チユートリアル1(神経疾患)	研究倫理と統計 演習	薬と疾病チユートリアル2(循環器疾患)	キャリアデザイン	学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	健康と環境 実習	在宅チーム医療と倫理 TBLIII	EBM演習	薬と疾病チユートリアル3(がん疾患)	キャリアデザイン	病院実習1	薬学研究 入門	キャリア教育	臨床心理学の活用	病院実習2(精神医療実習を含む)	薬局実習	海外における薬剤師の役割を知る	学部連携病棟実習	アドバンスド薬学英語	薬学研究 I・II・III	薬剤師の臨床判断	学部連携病棟実習
資質の到達レベル(学年の目安)	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	4	3	4	

